

研 究

ワクチン同時接種に関する
乳幼児の保護者の意識調査

足立 綾, 高野 政子

〔論文要旨〕

乳幼児の予防接種の実施状況と、ワクチン同時接種に対する保護者の意識を明らかにすることを目的に、保育所に通う乳幼児の保護者を対象に質問紙調査を実施した。その結果、任意接種の接種状況や予防接種に対する困難感
は保護者の職業や子どもの人数、子どもの疾患の有無に影響されていること、同時接種は約8割の保護者に認識
されていたが、不安を持つ保護者など3割弱は意識的に実施していないことが明らかとなった。また、同時接種につ
いて十分な説明を希望する保護者が多かった。医師や看護職は、保護者の不安を受け止め、子どもたちにとって有
益な選択ができるように保護者をサポートする必要があることが示唆された。

Key words：予防接種，同時接種，保護者，意識調査

I. はじめに

わが国では、1994年に予防接種法が改正され、予防接種は義務接種から勧奨接種へ、集団接種から個別接種へと変更されるなど、個人の意思を尊重する接種方法に方針が転換されている。2011年には日本小児科学会より推奨する予防接種スケジュールや同時接種に対する考え方が発表された。同時接種は非常にシンプルな接種スケジュールで遂行可能であり、生後早期に必要なワクチンを完了できる¹⁾とした。しかし、現在、予防接種の種類が多いことや、接種回数が複数回あること、接種時期・間隔が決められているなどの理由で、スケジュールが過密化、複雑化している。そのため、乳幼児をもつ保護者は、さまざまなワクチンを頻回に接種する必要があり困難を抱えていることや、子どもの疾患の有無や保護者の勤務形態が予防接種の実施に影響し、そのことが予防接種率にも影響を及ぼしていると推察される。

現在、子どもへの予防接種の実施を決めるのは保

護者であるため、保護者が高い意識を持って予防接種に取り組まなければ、その接種率を上げることは難しい²⁾という指摘がある。近年では、母親の就労率が増加し、平成27年度厚生労働省の国民生活基礎調査によると、母親の就労率は68.1%である³⁾。それに伴い乳幼児の日中の保育状況は、保育所利用率は39.9%⁴⁾、幼稚園利用率は48.5%、幼保連携型認定こども園利用率6.9%⁵⁾であり、未就学児全体の約95%以上が集団生活をしていると報告されている。予防接種率を上げるためには、保護者への積極的な予防接種の接種勧奨をしていく必要があるとともに、予防接種を受けやすい社会的な環境整備をしていかなければならない⁶⁾。今後も母親の就労率は上昇することが予測され、乳幼児が集団生活をするにあたり、予防接種率の向上は、感染症予防対策として重要である。先行研究では、予防接種に対する保護者の意識や接種状況を明らかにした研究はあるが、ワクチン同時接種に対する保護者の意識調査はほとんど見当たらない。本研究の目的は、乳幼児の予防接種の実施状況と、ワクチン同時接種に対

する保護者の意識を明らかにすることである。

II. 研究方法

1. 調査期間および対象者

調査は、平成26年8～9月に実施した。対象者はA市の14ヶ所の認可保育所に在籍する乳幼児の保護者1,027名とした。

2. 調査手順

調査は、先行文献を参考に独自に作成した無記名の自記式質問紙法で実施した。A市子ども保育課および各保育所長に研究の趣旨について口頭と文書で説明し同意を得た。その後、研究者が各施設に依頼文書と質問紙を持参して、対象の保護者に保育所長より配布していただいた。保護者が回答後に各自で封をして、保育所に設置した回収箱に投函してもらい、2週間後に研究者が直接回収した。

3. 調査項目

調査は、先行文献を参考に作成した自記式質問紙を用いて実施した。調査項目は、対象者の属性7項目、予防接種の実施状況8項目、同時接種の実施状況や意識15項目、保育所での予防接種の支援3項目、自由記述項目の合計34項目とした（資料）。

4. 分析方法

対象者の属性と予防接種の実施状況の関連、同時接種に対する考え方については、記述統計、 χ^2 検定を実施した。また、各予防接種の接種状況を従属変数、対象者の属性を独立変数とし、強制投入法によるロジスティック回帰分析を行った。データの分析は、SPSS Statistics 22を使用した（有意水準5%）。

5. 倫理的配慮

本研究への協力は、対象者の自由意思と任意性に基づいて行われることを文書で説明した。また、収集し

資料 質問紙の一部

III 予防接種の同時接種について、該当する番号に○をつけるか、ご意見をご記入ください。

16. 同時接種を知っていますか。 ① 知っている ② 知らない ➡ Q31へ

「知っている」方は、以下の質問へご回答ください。

17. 同時接種についてどのような方法で知りましたか（複数回答可）。
 ① 市報・保健所の通知
 ② 病院などでの説明
 ③ 新聞・テレビ
 ④ インターネット
 ⑤ 育児雑誌
 ⑥ 家族や友人からの情報
 ⑦ 育児相談
 ⑧ その他（ ）

18. 同時接種についてどなたかに相談しましたか（複数回答可）。
 ① 配偶者
 ② 祖父母
 ③ 医師
 ④ 看護師
 ⑤ 友人
 ⑥ その他（ ）
 ⑦ 相談はしていない

19. 同時接種について医師から説明を受けましたか。
 ① 受けた
 ② 受けていない
 ③ 自分から質問した

20. 医師の説明は理解できましたか。 ① 理解できた ② 理解できなかった

21. 「理解できなかった」方は、どうしましたか。
 ① 同時接種をした
 ② 同時接種をしなかった
 ③ その他（ ）

22. お子さんは同時接種をしたことがありますか。または、近いうちにする予定がありますか。
 ① あり（する予定である） ➡ Q23へ
 ② なし（する予定はない） ➡ Q30へ

たデータは厳重に保管し、協力していただいた個人が特定できないようにプライバシーを遵守し、調査結果は研究以外の目的では使用しないこと、回答用紙の返信をもって本調査に承諾されたと考えさせていただくことを文書で説明した。本研究は、所属施設の研究倫理安全委員会の承諾を得て実施した。

6. 用語の定義

同時接種とは、2種類以上のワクチン（混合ワクチンを除く）を同時に同一の接種対象者に接種することとした。

Ⅲ. 結 果

1. 対象者の属性（表1）

調査用紙は、乳幼児の保護者1,027名に配布し、610部（59.4%）を回収した。そのうち記載漏れなどを除いた583部（有効回答率56.8%）を分析した。対象者の平均年齢は35.6±4.8歳で、続柄は、母親565名（96.9%）と父親18名（3.1%）であった。職業は、フルタイム372名（63.8%）が最も多く、パートタイム175名（30.0%）であった。子どもの疾患の有無では、疾患なしが494名（84.7%）で、疾患あり89名（15.3%）であった。具体的な疾患はアレルギー疾患が33名と最も多く、循環器疾患18名、腎疾患5名、眼・耳疾患5名、神経疾患3名等であった。

2. 予防接種と同時接種の実施状況（表2）

予防接種率は出生順位が後になるほど低下する傾向がある⁷⁾という報告があるため、複数の子どもがいる場合には第1子について、子どもに疾患がある場合には疾患がある子どもについて回答していただいた。

「定期接種を受けている」は567名（97.3%）で、「任意接種を受けている」は492名（84.4%）であった。また、「スケジュール通りに接種できている」は471名（80.8%）であった。予防接種に対する「困難感あり」は365名（62.6%）で、その困難感の内容は、「種類・回数が多い」が161名（27.7%）と最も多く、「副反応が心配」が102名（17.6%）、「予防接種の時間がとれない」が79名（13.6%）等であった。また、「同時接種を知っている」は485名（83.2%）で、そのうち同時接種を「実施した／予定あり」が354名（73.0%）、「実施しない／予定なし」は131名（27.0%）であった。同時接種について医師から説明を受けたか否かでは、

「受けた」が352名（72.6%）と最も多かった。

3. 予防接種の接種状況と属性との関連（表3、4）

「定期接種を受けている」は、36歳以上が304名（98.7%）に比較して、36歳未満は263名（95.6%）であり（ $p < 0.05$ ），36歳未満を基準とした36歳以上のオッズ比2.95（95% CI：0.92～9.45）であった。「任意接種を受けている」は、フルタイム327名（87.9%）に比較してフルタイム以外165名（78.2%）であり（ p

表1 対象者の属性

		(n=583)	
		n	%
年齢	20～29歳	59	10.1
	30～39歳	396	67.9
	40歳以上	128	22.0
続柄	母親	565	96.9
	父親	18	3.1
職業	フルタイム	372	63.8
	パートタイム	175	30.0
	専業主婦	15	2.6
	自営業	18	3.1
	その他	3	0.5
子どもの人数	1人	190	32.6
	2人	276	47.3
	3人	96	16.5
	4人	18	3.1
	5人	3	0.5
子どもの疾患の有無	なし	494	84.7
	あり	89	15.3

表2 予防接種と同時接種の実施状況

		(n=583)	
		n	%
定期接種の実施	受けている	567	97.3
	受けていない	16	2.7
任意接種の実施	受けている	492	84.4
	受けていない	91	15.6
スケジュール通りの実施	できている	471	80.8
	できていない	112	19.2
予防接種の困難感	あり	365	62.6
	なし	218	37.4
同時接種の認知	知っている	485	83.2
	知らない	98	16.8
同時接種の実施 (n=485)	あり／予定あり	354	73.0
	なし／予定なし	131	27.0
医師からの同時接種の説明 (n=485)	受けた	352	72.6
	受けていない	103	21.2
	自分から質問した	25	5.2
	無回答	5	1.0

表3 予防接種の接種状況と属性との関連

(n=583)

		定期接種を受けている		任意接種を受けている		スケジュール通りできている		予防接種の困難感がある		同時接種を知っている	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
年齢	36歳未満 (n=275)	263	95.6	233	84.7	218	79.3	165	60.0	234	85.1
	36歳以上 (n=308)	304	98.7	259	84.1	253	82.1	200	64.9	251	81.5
職業	フルタイム (n=372)	365	98.1	327	87.9	309	83.1	250	67.2	315	84.7
	フルタイム以外 (n=211)	202	95.7	165	78.2	162	76.8	115	54.5	170	80.6
子どもの人数	1人 (n=190)	182	95.8	176	92.6	159	83.7	120	63.2	164	86.3
	2人以上 (n=393)	385	98.0	316	80.4	312	79.4	245	62.3	321	81.7
子どもの疾患の有無	あり (n=89)	89	100.0	72	80.9	72	80.9	65	73.0	82	92.1
	なし (n=494)	478	96.8	420	85.0	399	80.8	300	60.7	403	81.6

 χ^2 検定, ***p<0.001, **p<0.01, *p<0.05

表4 ロジスティック回帰分析を用いた予防接種の接種状況と属性との関連

属性	比較 / 基準	定期接種を受けている	任意接種を受けている	スケジュール通りできている	予防接種の困難感がある	同時接種を知っている
		オッズ比 (95% CI)	オッズ比 (95% CI)	オッズ比 (95% CI)	オッズ比 (95% CI)	オッズ比 (95% CI)
年齢	36歳以上 / 36歳未満	2.95 (0.92 ~ 9.45)	1.08 (0.68 ~ 1.72)	1.24 (0.81 ~ 1.90)	1.20 (0.85 ~ 1.70)	0.79 (0.50 ~ 1.24)
職業	フルタイム / フルタイム以外	2.42 (0.87 ~ 6.73)	1.87 (1.18 ~ 2.97)	1.42 (0.93 ~ 2.17)	1.69 (1.19 ~ 2.40)	1.31 (0.84 ~ 2.06)
子どもの人数	2人以上 / 1人	1.96 (0.70 ~ 5.48)	0.35 (0.19 ~ 0.64)	0.74 (0.47 ~ 1.19)	0.95 (0.65 ~ 1.38)	0.72 (0.44 ~ 1.19)
子どもの疾患の有無	あり / なし	—	0.81 (0.45 ~ 1.47)	1.03 (0.58 ~ 1.84)	1.76 (1.06 ~ 2.93)	2.78 (1.24 ~ 6.25)

**p<0.01, *p<0.05

各予防接種の接種状況を従属変数, 属性すべてを独立変数とし, 強制投入法によるロジスティック回帰分析を行った。

定期接種については, 子どもの疾患ありが100%のため独立変数には加えなかった。

95% CI : 95%信頼区間

<0.01), フルタイム以外を基準とするとフルタイムがオッズ比1.87 (95% CI : 1.18~2.97, p<0.01)であった。また, 子どもの人数1人176名 (92.6%) に比較して2人以上316名 (80.4%) であり (p<0.001), 1人を基準とすると2人以上ではオッズ比0.35 (95% CI : 0.19~0.64, p<0.01)であった。「予防接種の困難感がある」では, フルタイム250名 (67.2%), フルタイム以外115名 (54.5%) であり (p<0.01), その困難感の内容は, 「種類・回数が多い」がフルタイム, パートタイムでは最も多く, 「経済的負担がある」が自営業, 専業主婦で多かった。フルタイム以外を基準とするとフルタイムのオッズ比1.69 (95% CI : 1.19~2.40, p<0.01)であった。また, 子どもの疾患ありが65名 (73.0%), 疾患なしが300名 (60.7%) であり (p<0.05), その困難感の内容は, 「種類・回数が多い」が最も多かった。子どもの疾患なしを基準にすると疾

患ありのオッズ比1.76 (95% CI : 1.06~2.93, p<0.05)であった。「同時接種を知っている」は, 子どもの疾患ありが82名 (92.1%), 疾患なしは403名 (81.6%) であり (p<0.05), 子どもの疾患ありのオッズ比2.78 (95% CI : 1.24~6.25, p<0.05)であった。

4. 同時接種に対する保護者の意識 (表5)

同時接種を行う理由は「かかりつけ医に勧められた」155名 (35.0%) が最も多く, 「通院回数が減る」121名 (27.3%) などであった。一方, 同時接種をしない理由は「漠然とした不安がある」50名 (23.8%), 「安全性が確立されていない」49名 (23.3%) であった。同時接種を行う際の留意点は, 「かかりつけ医の判断に任せる」266名 (63.6%) が最も多く, 次に「一度に打つ種類を制限する」67名 (16.0%) であった。同時接種についての情報源は「病院等での説明」403名

表5 同時接種に対する保護者の意識

		(複数回答)	
		n	%
同時接種を行う理由 (n=354)	かかりつけ医に勧められた	155	35.0
	通院回数が減る	121	27.3
	スケジュールに余裕ができる	80	18.1
	単独接種と安全性が同じである	37	8.4
	子どもが経験する恐怖の回数を減らしたい	28	6.3
	免疫獲得が早くなる	15	3.4
	その他	7	1.6
同時接種をしない理由 (n=131)	漠然とした不安がある	50	23.8
	安全性が確立されていない	49	23.3
	必要性を感じない	25	11.9
	子どもが同日に繰り返す痛み・恐怖を避けたい	22	10.5
	ワクチンの効果が確実に得られるか不安である	19	9.0
	具体的な接種方法がわからない	2	1.0
	その他	35	16.7
	理由不明	8	3.8
実施時の留意点 (n=485)	かかりつけ医の判断に任せる	266	63.6
	一度に打つ種類を制限する	67	16.0
	不活化ワクチンのみ同時接種を行う	24	5.7
	特に気にしない	24	5.7
	生ワクチン同士の同時接種は行わない	19	4.5
	初回の接種時は単独接種のみ	14	3.3
	その他	4	1.0
同時接種の情報源 (n=485)	病院等での説明	403	60.6
	家族や友人からの情報	60	9.0
	市報・保健所の通知	56	8.4
	新聞・テレビ	53	8.0
	育児雑誌	41	6.2
	インターネット	40	6.0
	その他	12	1.8

(60.6%) が最も多かった。

5. 同時接種に対する保護者の意見・要望 (表6)

同時接種に対する保護者の意見・要望は、54件の記述が得られた。意味の内容ごとに要約、コード化して類似性に従って、5 カテゴリー(以下、【 】) および15サブカテゴリー(以下、「 」)を抽出した。

【十分な説明を希望】では、「安全性や効果を説明してほしい」、「ワクチンの説明がわからない」、「危険性や副反応の説明をしてほしい」など同時接種に対する説明を期待していた。【同時接種への抵抗感】は、2種類の違う注射を打つことに抵抗を感じるため「同時接種はしない」や「安全性への不安」、「副反応が怖い」、「子どもへの負担が大きい」、「保護者の都合」等で同時接種はしたくないという否定的な意見であった。【積

極的な接種】では、「楽になった」、「安全性に問題ない」、「ありがたい」という意見がみられた。【政策への要望】では、「安心できる接種体制にしてほしい」、「広めてほしい」、「単独接種を希望」等を要望していた。【同時接種を知らない】は、同時接種の説明を聞いたことがない等を記載していた。

IV. 考 察

1. 予防接種と同時接種の実施状況

今回の調査において、保護者は定期接種をほぼ全員が子どもに受けさせているが、任意接種を受けさせていると答えた保護者はそれに及ばなかった。また、保護者の6割強が困難を感じていることが明らかとなった。困難感の内容については「種類・回数が多い」、「副反応が心配」という意見が多かった。予防接種を受け

表6 同時接種に対する保護者の意見・要望の自由記述

(54件)

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
十分な説明を希望 (21)	安全性や効果を説明してほしい (11)	同時接種のメリット・デメリットを知りたい (6) 安全性について医師がきちんと説明してほしい (2) 予防接種をする時に医師から説明してほしい (2) 予防接種の間診票へ説明を記載してほしい
	ワクチンの説明がわからない (6)	可能なワクチンがわからない (2) なぜするのかわからない (2) 情報が多くよくわからない 病院での同時接種の説明は納得できなかった
	危険性や副反応の説明をしてほしい (4)	副反応を説明してほしい (3) 危険性を説明してほしい
同時接種への抵抗感 (15)	同時接種はしない (4)	今後もするつもりはない (2) 2種類の違う注射を打つことに抵抗を感じる 危なそうというイメージがある
	安全性への不安 (4)	同時接種や予防接種の安全性に不安を感じる (3) 死亡ニュースを見て安全性へ不安を抱いた
	副反応が怖い (3)	副反応が怖い (3)
	子どもへの負担が大きい (2)	子どもの恐怖心や負担が大きく感じる 子どもの負担が心配なので受けていない
	保護者の都合 (2)	保護者の通院回数が減ることしかメリットがない 病院に行く回数を減らせるが、それは保護者の都合
積極的な接種 (8)	楽になった (3)	かなり楽になった印象 (2) 病院に行く回数も減って助かった
	安全性に問題ない (3)	2本までと決めて行っている かかりつけ医を信頼し任せている 安全性に問題ないことは理解できた
	ありがたい (2)	子どもの体調等で予防接種が遅れるのでありがたい (2)
政策への要望 (7)	安心できる接種体制にしてほしい (3)	安心して接種できるようにしてほしい (2) すべきか、してはいけないのか決めてほしい
	広めてほしい (2)	同時接種の情報の普及啓発をしてほしい 安全であるならもっと広報すべき
	単独接種を希望 (2)	単独でも接種できるような制度にしてほしい (2)
同時接種を知らない (3)	同時接種を知らない (3)	聞いたことがなかった (2) かかりつけ医から説明はなかった

させる理由として「感染症から守るうえで必要」や「受けさせなければならない」、「親として子どもや社会に責任がある」であった。これらの結果は、予防接種は子どもの健康を守るうえで必要なものだという認識がありながらも、義務的な認識も存在している⁸⁾という考えが影響していると思われる。また、同時接種について知っている保護者が多く、同時接種を実施した／する予定ありは7割で、医師による説明に従う保護者が多いことが明らかになった。医師を対象とした先行研究において、同時接種を導入している医師は68%という報告⁹⁾があり、医師の説明の有無が同時接種の実施に影響していると思われる。現在、同時接種は「医

師が特に必要と認めた場合に行うことができる」とされているため、医師の判断が保護者の意思決定に影響していると考えられる。

2. 予防接種の接種状況と属性との関連

先行研究では、保護者の属性が予防接種率に影響しているという報告¹⁰⁾がある。今回の調査においても保護者の属性4項目との関連について分析した結果、年齢別での差異はみられなかった。職業別では、「任意接種を受けている」、「予防接種の困難感」においてフルタイム以外と比較して、フルタイムの保護者のオッズ比が高いことが明らかになった。フルタイム勤務の

保護者は、限られた時間の中で、種類や回数が多く予防接種に対する困難を感じていると考える。一方で、フルタイムの保護者は任意接種に対する意識が高いことが明らかとなった。子どもの病気に合わせて仕事を休みにくいため病気を回避したい、なるべく予防したいという考えが影響していると推察される。また、任意接種は経済的な負担が大きいことも影響していると考えられる。困難感の内容として自営業、専業主婦は「経済的負担」を挙げていた。任意接種の調査において、世帯総収入が高いほど接種率が高くなることが報告されている¹¹⁾。任意接種費用の助成等について検討する必要があると考える。

子どもの人数別では、2人以上の子どもをもつ保護者は任意接種を受けている割合が低かった。第2子以降の保護者は、予防接種に対する認識が低いことが指摘されている¹⁰⁾。しかし、複数の子どもをもつ保護者についても定期接種は受けていた。これは、任意接種に伴う経済的負担が大きいことが関連していることが示唆された。

子どもの疾患の有無別では、疾患のある子どもをもつ保護者の方が予防接種の困難を感じており、同時接種についても知っていると答えた保護者が多かった。疾患のある子どもに対する予防接種は、実施できる時期が限られているため効率良く実施し、ワクチンで予防される疾患から早期に守られる必要がある¹²⁾。そのため子どもに疾患がある場合には、数多くある予防接種を確実に接種するために同時接種は有効な手段であるといえる。保護者は、常に限られた時期に予防接種ができるように、子どもの体調やスケジュールの管理を行っているため困難感につながっていると考えられる。

3. 同時接種に対する保護者の意識と今後の課題

日本小児科学会は同時接種の利点として、ワクチンの接種率向上やワクチンで予防される疾患から早期に守られること、保護者の経済的、時間的負担の軽減や医療者の時間的負担の減少などを挙げている。今回の調査で、保護者が同時接種を行う理由として「医師に勧められた」が最も多いことや、実施時の留意点においても「医師の判断に任せる」という回答が多く、同時接種に対する保護者の意識は、医師の判断に影響されていると考える。このことは、わが国では同時接種の適応判断が実際の接種医の裁量に任されている⁹⁾という指摘と同様であった。保護者の自由記述では、同

時接種について十分な説明を希望するという意見が多く、保護者は情報が不足していることを指摘していた。

また、同時接種をしない理由では、「漠然とした不安や安全性が確立されていない」が多く、自由記述でも同時接種への抵抗感や同時接種に対する不安が記載されていた。わが国では、感染症の脅威は薄れ、大きな関心は感染症そのものから予防接種より生じる副反応や健康被害へと向けられている¹³⁾と指摘されている。日本小児科学会は、ワクチンを同時に接種して、ワクチンの有害事象、副反応の頻度が上がることはないと示している。しかし、予防接種には、副反応のリスクがあること、まれに有害な事象が報道されることで保護者が誤解を生むことになりかねない。医療専門職との信頼関係は、保護者の予防接種の意思決定に良い影響をもたらす¹⁴⁾とされている。医師や看護職は、保護者の不安を受け止め、子どもたちにとって有益な選択ができるように保護者をサポートする必要がある。また、子どもや保護者の負担を軽減させるためにも接種回数が減少する多種混合ワクチンの開発を進めていく必要があると考える。一方、積極的な接種の意見も聞かれた。「同時接種を実施したことで第1子より第2子は楽になった、ありがたい」という同時接種と単独接種を経験した保護者の意見である。乳幼児期の子どもをもつ就労している保護者の中には、同時接種はありがたい制度であると受け止められており、保護者の負担軽減につながっていると考えられる。今後、医師や看護職は、同時接種のメリットやデメリットについて、保護者に十分な説明を行い、保護者の意思で同時接種を選択できるように支援することが重要であると考えられる。

本研究の限界として、A市の認可保育所14ヶ所の保護者を対象としているため予防接種に積極的な方が地域に偏っている可能性がある。また、子どもの年齢や保育所に入所後の年月は調査していないため不明である。今後は、子どもの年齢や保育所入所後の保護者の予防接種に対する認識の変化についての検討を行う必要がある。

V. 結 語

今回、保育所に通う乳幼児の保護者を対象に調査を実施した。その結果、任意接種の接種状況や予防接種に対する困難感は保護者の職業や子どもの人数、子どもの疾患の有無に影響されていること、同時接種は約

8割強の保護者に認識されていたが, 不安を持つ保護者など3割弱は意識的に実施していないことが明らかとなった。要望として, 同時接種について十分な説明を希望する保護者が多く, 医師や看護職は, 保護者の不安を受け止め, 子どもたちにとって有益な選択ができるように保護者をサポートする必要があると考える。

謝 辞

本研究を行うにあたり, 調査にご協力頂いた保護者の皆様や, 配布等にご高配を賜りました保育所職員の皆様方に深く感謝申し上げます。

本研究は, 2015年6月に開催された第62回日本小児保健協会学術集会にて発表した。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 1) 久田 研. 小児領域におけるワクチン接種の現状と問題点. 順天堂醫事雑誌 2013; 59: 12-20.
- 2) 内山有子, 片桐朝美, 加藤英世. 予防接種の現状と保護者の意識・認識に関する研究. 日本女子体育大学紀要 2012; 42: 1-8.
- 3) 厚生労働省. 平成27年度国民生活基礎調査. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa15/dl/02.pdf> (2017/2/20)
- 4) 厚生労働省. 保育所等関連状況とりまとめ(平成28年4月1日). http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000098603_2.pdf (2017/2/20)
- 5) 文部科学省. 学校基本調査(平成28年度). http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2016/12/22/1375035_2.pdf (2017/2/20)
- 6) 永田 忠, 篠原秀久, 新田康郎. 保育園と幼稚園の感染症罹患と予防接種状況—広島市内保育園・幼稚園のアンケート調査より—. 小児科臨床 2008; 61(4): 765-772.
- 7) 瀬川英男, 平光良充, 五島 明. 名古屋市における保育園児の母親の麻しん予防接種に対する意識と行動. 小児保健研究 2011; 70(1): 8-13.
- 8) 渡部有紀子, 小林淳子. 予防接種に対する保護者の認識と意思決定に関する考察. 山形県公衆衛生学会講演集 2000; 26: 92-94.
- 9) 勝田友博, 宮地悠輔, 中村幸嗣, 他. ワクチン同時接種に対する接種医の意識調査. 日本小児科学会雑誌 2013; 117(10): 1645-1651.
- 10) 世古留美, 川戸美由紀, 橋本修二, 他. 母親の予防接種に対する認識と接種状況. 日本公衛誌 2008; 53(12): 884-888.
- 11) 小野 真, 沼崎 啓. 小児期の任意接種ワクチンに対する保護者の意識調査. 日本化学療法学会雑誌 2010; 58(5): 555-559.
- 12) 齋藤昭彦, 勝田友博, 菅原美絵, 他. 基礎疾患をもつ小児に対する同時接種によるワクチン接種. 日本小児科学会雑誌 2012; 116(5): 823-826.
- 13) 小野靖彦. 予防接種に対する保護者の意識. 日小医会報 2007; 33: 145-150.
- 14) Marie C Hill, Carol L Cox. Influencing factors in MMR immunization decision making. British journal of Nursing 2013; 15: 893-898.

[Summary]

Purpose: The purpose of this study was to clarify the actual situation of vaccinations and the guardians' perception for simultaneous inoculation of multiple vaccines to infants.

Methods: A self-administered questionnaire survey was carried out for 1,027 guardians of infants. The item included personal attributes, vaccination coverage, the coverage and the subjects' perceptions and attitudes concerning the simultaneous inoculation of multiple vaccines, and free comments.

Results: We analyzed 583 respondents from 610 guardians (56.8% of effective answer rates). The average age was 35.6 ± 4.8 years old among 565 mother (96.9%). The occupation status was 372 full-time workers (63.8%) and part time workers 175 (30.0%). The inoculation situation of the optional vaccination was influenced by the occupation of the guardians and the number of children. Feeling of difficulty for the vaccination was influenced by the occupation of the guardians and presence or absence of disease of children. "I know the simultaneous inoculation of multiple vaccines" was answered by 485 (83.2%) guardians, "Conducted/Plan" was answered by 354 (73.0%). Mothers (35.0%) who perform a simultaneous inoculation had a recommendation from family doctors.

The reasons why mothers did not conduct a simultaneous inoculation of multiple vaccines were uneasiness (23.8%) and unestablished safety (23.3%). Free comments indicated that many mothers required enough explanation about the simultaneous inoculation of multiple vaccines.

Conclusions : This study showed that the number of guardians who knew the simultaneous inoculation of multiple vaccines were more than 80%. In addition, it was

necessary to give enough explanation to guardians about the merits and demerits of simultaneous inoculation of multiple vaccines. This study suggested that doctors and the nurses should support guardians to do useful choice for a child.

[Key words]

vaccination, simultaneous inoculation, guardians, consciousness survey